

●書学書道史学会

## 会報

第19号

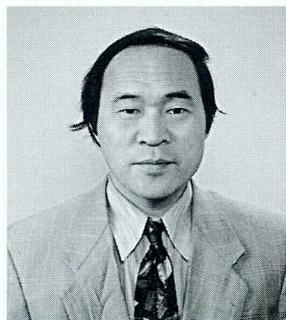
平成22年(2010)6月1日発行

編集・発行  
書学書道史学会  
会報委員会東京都渋谷区桜丘町29-35  
〒150-0031 美術新聞社内  
TEL(03)3462-5251(代)  
FAX(03)3464-8521(代)

## 理事長就任に当たって

大橋 修一

書学書道史学会も昨年、創立二十周年を迎えることができました。これも偏に元・前理事長の西林昭一、興膳宏、古谷稔の各氏をはじめ、役員・会員のみなさんが一丸となって支えてこられた結果であろうと思います。この節目の年に理事長を仰せつかり、私としては身の引き締まる思いです。幸いにも、今後一緒にやっていく理事や幹事のみなさんとは気心も通じており、私も含めて一人一人が実働部隊となつて、この学会をさらに飛躍させねばと意気込んでおりますので、会員のみなさんには、さらなるご支援をお願いする次第です。



また二十年間、本会の裏方として数々の面倒な業務を周到に、しかも一手にひき受けて下さった萱原晋氏も、三月をもって定年となりました。し

かし、今後しばらくは、業務の引き継ぎが完了するまではアドバイザーとして、お力をお貸し頂く所存です。

振り返ってみますと本学会は、二十一年前の平成元年九月三日に熱海において開かれた設立準備委員総会をもって実質的なスタートを切りました。この総会には、初代役員就任が予定されていた西林興膳、萱原、杉村邦彦、木下政雄、松丸道雄氏、それに今は亡き大場脩、伊藤伸氏らと、幹事候補生であった澤田雅弘、杉浦妙子、鈴木晴彦、中村伸夫、弓野隆之ほかの各氏と私など、合わせて十七名が参加して、学会設立へ向けた綿密な協議を行い、その半年後の翌平成二年二月に東京で発会式をもって、正式に誕生したのでした。

それから二十年、特に当時の若手であった我々はこの学会で育てられ、自身の財産づくりを行うことができたのだと、今さらながら痛感する次第です。それだけに今後は、我々が次世代を支える会員のみなさんに「どうかこの学会で自身の財産づくりを」と胸を張って言える学会にしないでと考えています。学会の方向性は会則にもしっかりと明記してありますが、さらにこの二十年間の歴史も大切にしながら、常に開かれた民主的な運営を通して、みんなが会員なんだ、参加しているんだという意識で実質的に関与出来るような雰囲気や、その方法を考えていければと思います。

書に対する関心の持ち方は各々違うわけですが、それぞれが自分の立場から、興味関心から、書に対する考えを發展させ啓発し合うことができる場、それこそが学会のあるべき姿であり、効用だろうと思います。会員のみなさんのご協力をお願い致します。

### 第21回書学書道史学会大会のご案内

第21回書学書道史学会大会は、広島・安田女子大学において以下の日程で開催されます。詳細については、十月初めに会員各位に配付予定の『第21回(二〇一〇)大会のしおり』において、研究発表者の皆さんの『レジュメ集』とともに「プロ



グラム」「大会関係各種連絡事項」としてお知らせする予定です。なお、現在までに固まっている大要は、以下の通りです。



○理事会Ⅰ一〇月二三日(土) 午前一時から午後一時まで、九号館二階ワーキングルームにて

○大会Ⅰ一〇月二三日(土) 午後一時から、安田女子大学九号館内(写真)にて受付開始。午後一時三〇分から総会、午後二時三〇分から研究発表等。二四日(日) 午前九時三〇分から研究発表等。(今年も研究発表は、すべて同一会場にて順次行い予定)

○懇親会Ⅱ二三日(土) 午後五時三〇分から安田女子大学キャンパス内の「まほろば館食堂」にて開催予定。

○記念講演等Ⅱ二三日(土)に、京都・陽明文庫名和修館長による記念講演「近衛家伝世書の資料」(仮題)と、陽明文庫蔵の名品の特別鑑賞会を予定。

○大会会場Ⅱ安田女子大学 九一五四講義室

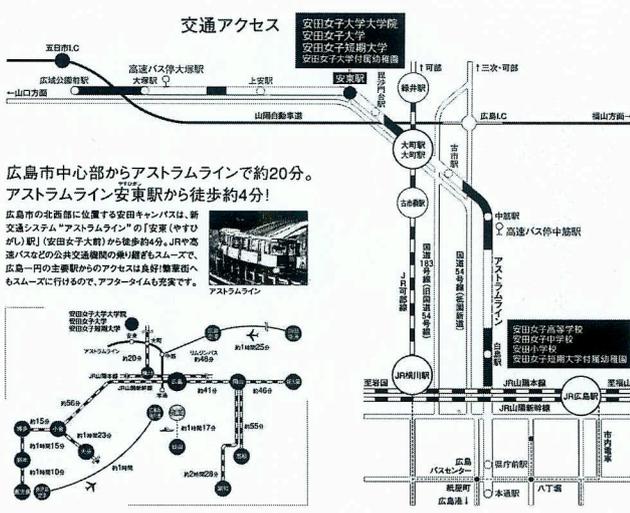
○連絡先Ⅱ〒七三一一〇一五三 広島市安佐南区 安東一―一三―一 安田女子大学 TEL〇八二―八七八―九七四九 信廣研究室

○会場への交通ⅡJR広島駅よりJR可部線「大

### (国内局)

町」駅(乗車約二〇分)、アストラムラインへ乗り換え「安東(やすひがし)」駅(乗車約五分)下車。その他、アストラムライン「本通」駅より「安東」駅(乗車約二〇分)下車。安東駅からエレベーター使用、約五分。

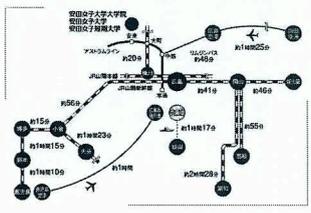
○宿泊用のホテルⅡ役員、会員ともに各自で手配をお願いします。ただし、秋の行楽シーズンにあたりますから、広島駅、およびアストラムライン駅近辺の施設を早めに予約してください。



#### 交通アクセス

広島市中心部からアストラムラインで約20分。アストラムライン安東駅から徒歩約4分!

広島市の北西部に位置する安田キャンパスは、新交通システム「アストラムライン」の「安東(やすひがし)駅」(安田女子大前)から徒歩約4分。JRや高速バスなどの公共交通機関の乗り継ぎスペースで、広島一円の主幹駅からのアクセスは良好!乗車回数もスムーズに行けるので、アフタータイムも充実です。



## 2010年度・第21回大会研究発表募集要項

今秋の「第21回書学書道史学会大会」は、広島・安田女子大学において別項のとおり開催されます。研究発表会場は今年も従来どおり1室制とし、原則として分科会方式はとりません。多くの会員各位の積極的な発表を期待します。奮ってお申し込み下さい。

### 記

- 1) 研究発表日時：平成22年10月23日(土)午後～・24日(日)午前～午後
  - 2) 発表時間：各30分(発表20分・質疑応答10分)
  - 3) 発表申込み方法：適宜の形式の「大会発表申込書」に標題・住所・氏名を明記し、800字程度のレジユメを添えて提出して下さい。
  - 4) レジユメの形式：原則としてワープロで作成し、テキスト形式でCDもしくはフロッピーディスクに保存して、印字出力した別紙と合わせて提出して下さい。メールでの送信も受け付けます。その場合は、印字出力したものを合わせてファックス送信して下さい。
  - 5) 発表申込み締切り：平成22年7月10日(土)＝必着＝
  - 6) 発表者の決定と連絡：大会での発表者は、学会大会運営委員会で7月中旬に決定し、個別にご連絡します。
  - 7) 『大会のしおり』(レジユメ集合む)の配布：10月初めに全会員宛に配布します。
- ※大会での発表者については、学会誌『書学書道史研究』第21号(平成23年秋刊)への論文投稿申込みがあったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込みをする必要はありません。
- ※発表者の学会誌用論文原稿の締切りは、平成23年3月末日です。原稿の採否は査読委員会で決定されます。学会誌掲載についてご不明の点は、編集局まで文書でお問合せ下さい。
- ※「大会発表申込書」とレジユメ(CDもしくはフロッピーディスク・印字添付)は、封筒に「発表申込み・レジユメ在中」と明記して下記宛にお送り下さい。不着事故をさけるため、簡易書留郵便または宅配便をご利用下さい。

〈送り先〉〒150-0031東京都渋谷区桜丘町29-35 ヴィラ桜ヶ丘ビル7F

Tel : 03-3462-5251 Fax : 03-3464-8521 e-mail : ssg@kayahara.com

書学書道史学会国内局・大会運営委員会 宛

### 第6回「書学書道史学会会員のための特別鑑賞セミナー」開催報告

平成二二年三月六日(日)午後二時、早稲田大学會津八一記念博物館において、第六回特別鑑賞セミナーを開催した。會津八一は、詩人・書家として世に知られ、早稲田大学では東洋美術史、教育者であったが、彼の交流の一端を示す尺牘、折帖、歌集、印譜、扁額、条幅など、総計一四点を特別に陳列していただいた。

記念博物館に付属したレクチュアー室内の机上に尺牘や折帖などが並べられ、周囲の壁面には条幅が掛けられた。まず当館の研究助手(三宮千佳氏)から會津八一像の一端と陳列作品に関する解説を受け、その後各自自由参観となった。最終的な参加人数は二七名とほぼ予定通りだったが、実は受付当初の参加希望者は極めて少なかった。この原因の一つには、会員へのアナウンスが一二月の会報と学会ホームページだけだったからではないかと思われる。今後の検討課題としたい。

今回のセミナー開催に当たりご尽力頂いた関係各位には、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

(国内局)

### 第11期役員改選選挙報告

#### 第11期役員改選選挙の結果について

選挙管理委員会は、当学会選挙管理規程に基づいて、第十一期役員改選選挙を平成二十二年二月二日に告示し、三月五日を投票締切日として郵送により実施しました。

今期の選挙では、告示日現在の在籍会員数(賛助会員を除く)は四八七名であり、これから海外の特別会員と行方不明会員を除いた四七八名に投票用紙を郵送して、投票を依頼しました。

そして告示文書にて予告の日程に従い、三月七日に学会本部において開票しました。有効投票総数は四七票でした。開票の結果、規程第六条によって、次の選挙選出理事と監事が当選と決定しました。

▽理事 大橋修一、萱のり子、河内利治、菅野智明、澤田雅弘、鈴木晴彦、富田 淳、中村伸夫、森岡 隆、横田恭三

▽監事 杉浦妙子、名児耶明 (以上五十音順)

#### 投票数の減少傾向について

この数年、選挙のたびに投票数が減少しています。この状況に配慮して、今回の選挙告示文書に特に、「ぜひ全ての会員各位に投票をお願いする」という要請文を付して、実施しました。

ところが、結果的には前回よりさらに二割減という結果となりました。六年前の第八期の選挙では一七〇票を超えていたことを思うと、きわめて顕著な減少です。有権者数から見ても、一割にも満たない投票率というのは、非常事態だと思えます。

このように投票数を減少させている原因は何なのか。本学会の民主的な運営の伝統を守るためにも、第十一期役員諸氏には、この点をよく分析、検討し、総合的な対策を講じてほしいと思います。又、会員諸氏もこのことをよく考えて、会員としての責任を果たしていただきたいと思えます。

(選挙管理委員会)

#### 第11期役員会発足・役員一覽

任期満了に伴う役員改選選挙が、三月五日を投票締切日として実施されました。選管による開票・当選者決定と、これに続く所定の理事選出手続きを経て、三月三十一日に開かれた第四十八回臨時理事会において、「第十一期役員会」が発足致しました。今期役員会の任期は、平成二十二年四月一日から平成二十四年三月三十一日までです。

【理事長】 ○大橋修一 (埼玉大学教授) (五十音順、○印は新任)

【副理事長】 ○澤田雅弘 (大東文化大学教授) || 研究局長 || 中村伸夫 (筑波大学教授) || 編集局長 ||

【常任理事】 萱のり子 (大阪教育大学教授) || 副国内局長 || 河内利治 (大東文化大学教授) || 国際局長 ||

菅野智明 (筑波大学准教授) || 鈴木晴彦 (日本大学教授) || 事務局長 ||

富田 淳 (東京国立博物館調査研究課長) || 副国際局長 || 森岡 隆 (筑波大学教授) || 学術局長 ||

横田恭三 (跡見学園女子大学教授) || 国内局長 || 池田利広 (大阪教育大学准教授) || 副事務局長 ||

大野修作 (前京都女子大学教授) || 副国際局長 || 柿木原くみ (相模女子大学准教授) || 副編集局長 ||

笠嶋忠幸 (出光美術館学芸課長代理) || 副国内局長 || 下野健児 (花園大学教授) || 副国内局長 ||

高城弘一 (大東文化大学准教授) || 副編集局長 || 鶴田一雄 (新潟大学教授) || 副研究局長 ||

信廣友江 (安田女子大学教授) || 副事務局長 || 福田哲之 (鳥根大学教授) || 副学術局長・副研究局長 ||

弓野隆之 (大阪市立美術館主任学芸員) || 副国際局長 || ○杉浦妙子 (二松学舎大学講師) || 選挙管理委員長 ||

名児耶明 (五島美術館学芸部長)

石井健、○王力軍、小川博章、○鎌田美里、亀田絵理香、

○下田章平、高澤浩一、○高橋利郎、○谷口邦彦、永由徳夫、鍋島稲子、橋本貴朗、○六人部克典、森上洋光、○矢野千載、山本まり子

事務局



平成21年度 科研(科学研究費補助金)採択課題一覧(本会関係分)

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者(会員)とを併記した。  
 なお、所属の後の数字は、平成21年度のみ補助金の額。

基盤研究(A) 継続(平成18-) 南北朝~隋代における石刻造像銘の調査及びその地域史的宗教環境の研究 宮崎洋一(広島文教女子大学) ※代表:佐藤智水(龍谷大学) 6,240千円

基盤研究(A) 継続(平成19-) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表:佐々木丞平(京都国立博物館) 8,320千円

基盤研究(B) 継続(平成18-) アジア的美意識とは何か 萱のり子(大阪教育大学) 代表:神林恒道(立命館大学) 4,290千円

基盤研究(B) 継続(平成19-) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 赤尾栄慶(京都国立博物館) 4,290千円

基盤研究(B) 継続(平成19-) 真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究—金剛寺本を中心に— 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表:後藤昭雄(成城大学) 4,940千円

基盤研究(B) 継続(平成19-) 故宮博物院に収蔵される甲骨文の来源踏査—未刊本『甲骨刻辞』の解読を通して— 東賢司(愛媛大学) 1,300千円

基盤研究(B) 継続(平成19-) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 富田淳(東京国立博物館) ※代表:島谷弘幸(東京国立博物館) 6,630千円

館) 6,630千円

基盤研究(B) 継続(平成20-) アメリカ収蔵「書跡」の基礎データ収集と整理のための調査研究 河内利治(大東文化大学) 2,600千円

基盤研究(C) 継続(平成19-) 中国近代書論の文献学的研究 菅野智明(筑波大学) 910千円

基盤研究(C) 継続(平成19-) 「高野切本古今集」全20巻の復元研究—古筆復元の方法論の確立— 森岡隆(筑波大学) 260千円

基盤研究(C) 継続(平成20-) 中国北朝墓誌工房の基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学) 520千円

基盤研究(C) 継続(平成20-) 記述力の変容を促す書字行動及び書字習慣の追跡と分析 鈴木慶子(長崎大学) 1,430千円

基盤研究(C) 継続(平成20-) 戦国簡牘文字の地域差に関する基礎的研究 福田哲之(島根大学) 650千円

基盤研究(C) 新規 日本の篆刻に関する基礎的研究 神野雄二(熊本大学) 1,300千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成19-) トライアングレート法を用いた地域連携実習カリキュラムの教育効果測定と改善 東賢司(愛媛大学) ※代表:山崎哲司(愛媛大学) 500千円

特定領域研究 継続(平成17-) 東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—:総括班 板倉聖哲(東京大学) 代表:小島毅(東京大学) 39,500千円

特定領域研究 継続(平成17-) 寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク 板倉聖哲(東京大学) 代表:井出誠之輔(九州大学) 7,800千円

3月31日	3月	3月	12月31日	12月10日	11月	10月24日	10月23日	10月23日	10月22日	10月4日	9月30日	9月30日	9月	9月	9月	9月	8月	8月	7月17日	7月10日	6月	6月	6月20日	6月1日	5月18日	5月15日	4月10日	
学会誌21号投稿原稿締切り	常任理事会会議(於 )	国内局第7回鑑賞セミナー	学会誌21号投稿申込締切り	《会報》第20号発行	事務局会報委員会編集会議(於 )	同	第21回大会(於安田女子大学)	第50回定例理事会(於安田女子大学)	20周年記念論文集発行	大会最終連絡発送	「大会レジュメ集」発行	学会誌20号発行	国際局会議(於 )	研究局会議(於 )	学術局会議(於 )	編集局編集会議(於 )	第21回大会運営委員会現地調査	記念論文集編集会議(於 )	第49回臨時理事会(於桜丘町施設)	第21回大会発表申込締切り	第21回大会発表申込締切り	編集局編集会議(於 )	記念論文集編集会議(於 )	第6回研究発表会(於花園大学拈花館)	《会報》第19号発行	事務局会報委員会編集会議(於本部)	常任理事会会議(於本部)	常任理事三役会議(於本部)

22年度事業・活動計画案(暫定)

◆第十一期役員会の発足について

任期満了に伴う役員改選選挙の結果(四ページ・選挙報告参照)を受け、「第十一期役員会」の編成準備のための選挙選出理事(会則第10条準拠)による「緊急協議」が三月十四日、本部事務局で開かれ、理事会三役(理事長・副理事長・常任理事)を互選の上、理事長指名枠一〇名の理事の選任と就任要請を行いました。その結果、理事長指名枠理事の全員の方に就任をご快諾頂き、第十一期役員会の陣容(四ページ参照)が固まるとともに、これを受けて三月三十一日、桜丘町施設において第四十八回臨時理事会が開催されました。

◆第48回臨時理事会ひらく

第四十八回臨時理事会では、まず選挙選出理事を三役とする互選人事案の承認手続きの後、各局・委員会の方掌(担当局長・委員長・局幹事・委員)人事を次の通り決定しました。

- ◇国際局長・河内利治
  - ▽副局長・富田 淳、大野修作、弓野隆之
  - ▽局幹事・王 力軍、小川博章、鍋島稲子
- ◇国内局長・横田恭三
  - ▽副局長・萱のり子、下野健児、笠嶋忠幸
  - ▽局幹事・石井 健、高澤浩一、谷口邦彦、永由徳夫、森上洋光
- ◇学術局長・森岡 隆
  - ▽副局長・福田哲之
  - ▽局幹事・橋本貴朗、矢野千載
- ◇編集局長・中村伸夫
  - ▽副局長・高城弘一
  - ▽局幹事・下田章平
- ◇事務局長・鈴木晴彦
  - ▽会報委員会委員長・柿木原くみ
  - ▽委員・六人部克典
  - ▽副局長・池田利広、柿木原くみ、信廣友江
  - ▽局幹事・亀田絵理香、山本まり子

◇選挙制度改革検討委員会

- ▽委員・柿木原くみ、福井淳哉
- ◇研究局長・澤田雅弘
  - ▽副局長・鶴田一雄、福田哲之
  - ▽局幹事・鎌田美里、高橋利郎
- ◇選挙管理委員会規定により、役員から四名会員から二名
  - ▽委員長・杉浦妙子
  - ▽委員・柿木原くみ、鈴木晴彦、高城弘一、亀田絵理、山本まり子

また、今期の役員改選で理事を退任された古谷稔氏(69)、監事を退任された浦野俊則氏(70)を「参事」に推す人事も、決定をみました。

◆常任理事会ひらく

第48回臨時理事会における継続審議事項、及び直近の緊急懸案事項を協議するため、五月十五日、本部事務局において常任理事会が開催されました。主な審議事項は次の通りでした。

- ①22年度予算案について
  - 各局における予算の配分にあたり、「平成22年度暫定予算案」の予算額に対する各局長からの意見聴取を実施し、予算額に対する執行根拠を検討しました。
  - ②22年度大会日程について
    - 第21回書道史学会大会(広島・安田女子大学)における基本的な方針とおおまかな日程を検討しました。(四ページ参照)
- ③役員選挙制度について
  - 現行の学会役員(理事・監事)選挙制度の改革を目的とする「選挙制度改革検討委員会」の設置と、当該委員会のメンバーとを決定しました。当該委員会のメンバーは、上記「各局・委員会の分掌」の通りで、メンバーへの通知と招集については事務局が担当することを確認しました。
  - ④諮問委員委嘱について
    - 諮問委員の学会に対する役割を明確化する目的で、会則第6条の9に「諮問委員」を明記することを検討

討しました。併せて、同第15条に「諮問委員は、理事会によって委嘱される。理事長は会務について諮問し、また会務の一般を委嘱することができる。」の文言を策定することを審議しました。なお、この案件は会則改正に関わることから、理事会の発議を経て、総会で承認を求め方向となりました。

⑤事務局業務委託について

今期の役員改選で菅原晋先任事務局長(69)の理事退任に伴う今後の事務局運営については、すでに三月三十一日の第四十八回臨時理事会において美術新聞社との業務委託が承認済みでしたが、五月六日、大橋理事長と美術新聞社との間で正式文書の調印を取り交わしたことを確認しました。この調印により、当面、これまで通り本部事務局を美術新聞社内におくこと、及び本会事務局業務を美術新聞社に業務委託することが決定しました。

⑥学術局からの会則改正案について

学術局からの会則第16条の4「学術用語問題等の調査研究、研究文献の収集、学際交流の促進等の業務」を「関連学術団体・学協会の対応、学際交流の促進等の業務」の文言に改正することが提案されました。本件は会則改正に関することから、理事会の発議を経て、総会承認を求め方針となりました。

◆修了・満期退学等に伴う学生会員の会員手続きについて  
 学会では、すでに学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は、学生会員(学生会費適用の方)が大学院を修了し、あるいは満期退学・自主退学、その他の理由により学籍を失った時(学割証の発給対象でなくなった時)に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の学生会員の方が引き続き学会会員として留まろうとする場合には、必ず「会員手続き」が必要です。この「会員手続き」は届け出事項のため、書類提出のみで、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、一般会員の方が大学院に社会人入学するなどして「学生会員」の適用

(7頁からつづく)

を受けようとする場合には、「学生会員移行申込書」の提出を要します。一般会員のままで大学院に通う場合は、手続き等は必要ありません。また、今春学生会員資格を失った方も、全員「会員手続き」をお願いいたします。

◆本年度分の年会費をご納入下さい

本号に年会費をご納入頂くための郵便振替用紙を同封しました。振替用紙が同封されていない方は、

すでに二〇一〇年度分の年会費が納入済みの方です。また、二〇一〇年三月現在、満三年以上年会費を滞納している方には、「会費至急納入願」と記載のある振替用紙を同封してあります。この用紙同封の方は、必ず六月三日までに全額をご納入下さい。ご納入がない場合は、すでに導入されています「長期会費滞納者の自動退会(除籍)制」の適用対象となります。また、会費滞納による除籍会員に対する学会の

会費請求権は消滅せず、会員台帳別表にて管理の上、納入要請を続けることが総会決定されていますから、ご了承ください。  
◆次回理事会は七月十七日(土)に開催されます  
学会の第四十九回臨時理事会は七月十七日(土)午後二時から、事務局至近の渋谷・桜丘町施設で開催します。役員各位には改めてご案内を差し上げますが、予めご予約にお入れ頂ければ幸いです。

談話室

東京中国文化センター 土屋明美

昨年末、「東京中国文化センター」(虎ノ門)が設立され、順次、展覧会を鑑賞した(「中国現代名家精品展(沙孟海、啓功等)」、「農民画」と「中国代表女流画家7人展」)会場では、講演会、揮毫会、ビデオ(作家紹介等)の放映、資料(新聞・雑誌)の公開も行われている。

「中国現代」の作品を日本において継続的に鑑賞できるようになったことは、書の研究の伸展にも繋がる可能性があるのではないだろうか? 引き続き、同センターの動向に注目したい。

本は一日にしてならず 家人博徳

私ごとではあるが、二月に拙著『中世書写論』を刊行した。これまで発表してきた論をまとめる形なので、ある程度はできていたものの、あらためて見直しながら進めていった結果、一年を費やしてしまっただけ。

本を刊行するに際し、研究する意味

を自分自身に問うことの大切さをつくづく感じた。個々の論でも同じことなのだが、一つの問題を明らかにすることとにどんな意味があるのか、研究は関連分野の発展に繋がるのか等...これらが反映できたか否かは分からないが、そんなことを自問自答しているうちに長い時間が経過した気がする。

そして、あらためて思う。普段何気なく手にする書籍が様々な思いや相当の労力で著されていることを。頭が下がる。

二百年前の交友

吉村富美子

大阪にある持明院は現在、生国玉神社に向かう途中、ビルの谷間でそこだけ時間が止まっているような所である。文化八(一八一)年、田能村竹田はここで頼山陽と出会う。著作の刊行作業のために滞在中のことである。同春秋には岡(大分県)で一揆が散発。この一揆について彼は熱き思いを五千字に及ぶ建言書として表した。

これらの出来事の数年前に上方で亡くなったのが上田秋成である。今夏、京都国立博物館で没後二〇〇年の特別展が予定されている。竹田は晩年の秋

成と会っているが、夏の京都で煎茶を喫すれば彼らの閑談に加われるだろうか。

会員動静

○石飛博光(会員) 〓 大正大学客員教授 新任

○角井博(参事) 〓 ふくやま書道美術館 館長新任

○中村史朗(会員) 〓 滋賀大学教授昇任

○橋本貴朗(幹事) 〓 國學院大学助教新任

○野中浩俊(参事) 〓 岐阜女子大学特任 教授新任

○山元宣宏(会員) 〓 宮崎大学講師新任

○福井潤哉(会員) 〓 帝京大学講師新任

新入会員(H21・11・22・4)

○丸山果織(S50) 高校講師

○佐々木佑記(S56) 博物館専門員

○金貴粉(S55) 資料館学芸員

○瀬川清(S27) 高校教諭

○(学)玉真優樹(S60)

○(学)西口千尋(S61)

○柳田さやか(S58) 高校講師

編集後記

◆今期から幹事として会報の編集に携わることになりました。諸先輩がたから学びながら、本業務を進めて参りたいと思います。(六人部克典)

◆本学会「研究」誌創刊号の編集後記に、「本学会は平成二年一月二十一日(日)の東京・虎ノ門の国立教育会館における発会式のと、四月一日に正式に発足し、...と、記されている。

思い起こせば、本学会が誕生した当時はバブル経済絶頂期で、就活は完全に売り手市場。会社説明会へ出向けば、交通費支給と食事接待はつきものであった。学生は一日に二、三社回れば、結構な小遣い銭稼ぎと、ご馳走にありつけた。嘘のような話であるが、本当のことである。しかし、現在の就活は厳しく、この二〇年間の世の中の変化は激しい。「機を見るに敏」との用語があるが、本学会にあっても、変化に柔軟な姿勢をもって対応しなければ、生き残れないのかもしれない。――と、いささか自虐的に自問自答する今日この頃である。(H・S)